

**製品名: KDM3A マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80920**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,ICC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含む PBS。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	147kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KDM3A
別名	TSGA; JMJD1; JHDM2A; JHMD2A; JMJD1A; KIAA0742; DKFZp686A24246; DKFZp686P07111; KDM3A
遺伝子 ID	55818.0
SwissProt ID	Q9Y4C1
免疫原	大腸菌で発現したヒト KDM3A の精製された組み換え断片。

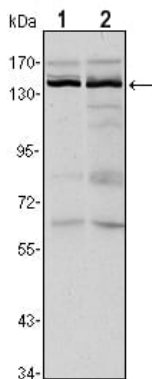
**背景**

この遺伝子は、十文字ドメインを含むジンクフィンガータンパク質をコードし、ホルモン依存性転写活性化において役割を果たすと

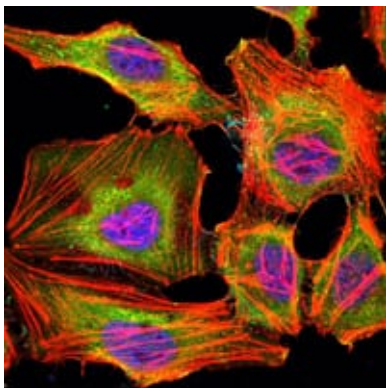
考えられます。JMJD1Aは、モノメチル化およびジメチル化特異的な脱メチル化酵素として機能し、鉄と $\alpha$ -ケトグルタル酸を補因子として結合し、ヒストンH3のリジン9を脱メチル化します。これは、JMJD1Aがヒストンコードにおいて中心的な役割を果たし、核ホルモン受容体に基づく転写制御に関与していることを示唆しています。さらに、JMJD1Aは発生中の細胞増殖の制御とクロマチン制御において重要な役割を果たしています。JMJD1Aは、TNP1とプロタミン1（精子クロマチンの適切なパッケージングと凝縮に必要なタンパク質）の発現を直接制御するため、精子形成において重要な役割を果たします。

## 研究分野

## 画像データ



HeLa (1) および HepG2 (2) 細胞溶解物に対する KDM3A マウス mAb を使用したウェスタンブロット分析。



KDM3A マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。